企業研究

株式会社ケイ・オプティコム

光の激戦区で意欲的な価格戦略と先端実験

光ファイバー最大の激戦区をサービスエリアに持つケイ・オプティコムは、高い人口カバー率と料金セット割引でユーザーを獲得している。また、パソコンまでの1Gbps接続など、来るブロードバンドコンテンツの提供に向けての試験サービスを積極的に展開している。

近畿圏に特化したスケールメリット

ケイ・オプティコムは2004年9月、インターネット接続サービスの大幅な値下げを行った。「eoホームファイバー」の月額料金を6,300円から4,900円（即割適用時）にし、新しく「eo光電話」を月額300円で開始した。「光ネットと光電話をADSLと一般加入電話より安く」というストレートなメッセージがユーザーに受け入れられ、その後の単月申込者数は3倍以上に増えたと言う。また、申込者のうち7割近くが光電話を同時に申し込んでおり、固定電話も同時に安く使えることがユーザーにとって大きな魅力となっているようだ。

こうした戦略を打ち出した背景には、ケイ・オプティコムが「光ファイバー最大の最激戦区」と言われる近畿圏をサービスエリアに持つことがある。近畿2府4県は都道府県別FTTH世帯普及率で上位14位以内に入っており、全国平均を大きく上回っている。この激選区で、ケイ・オプティコムは世帯カバー率を92%（2005年1月1日現在）まで伸ばし、他事業者の参入しにくい町村でもサービスを提供している。近畿圏に特化して高いカバー率を実現することにより、サービスのスケールメリットを生んでいると言えるだろう。

第4のサービスへ向けた実験

ケイ・オプティコムでは、すでに新しい映像圧縮技術「H.264方式」を用いたインターネット上でのハイビジョン映像配信実験を行っている(*1)。また接続速度においては、神戸市内の100世帯を対象に、宅内のパソコンまで1Gbps接続を実現する超高速インターネット接続試験を行うなど(*2)、実用化に向けた新技術の取り込みに注力している。

ケイ・オプティコムとしては、10Mbpsずつの高速化を経験してきたADSLユーザーに向けて、100Mbpsの先には1Gbpsがあるという明確なメッセージを示し、FTTHへの移行を一層加速させたい考えだ。

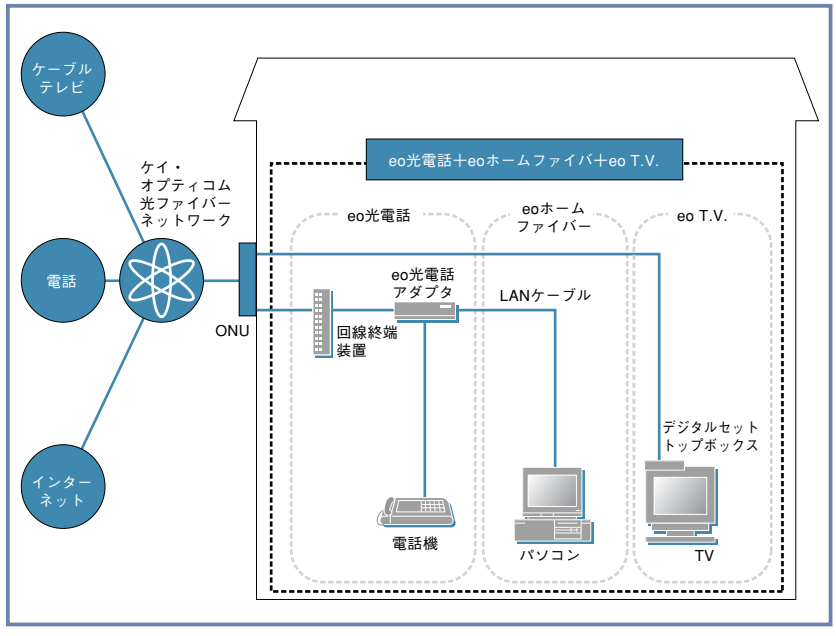
また、ケイ・オプティコムでは、CATV事業者との協力により、「eo T.V.」という光ケーブルテレビサービスを展開している。これは、宅内まで光ファイバーが引き込まれていることから実現したもので、伝送はケイ・オプティコムが、コンテンツは役務利用によってCATV事業者が提供する。ケイ・オプティコムとしてはCATV事業者に光ファイバーを貸している形態であるが、両者およびユーザーにもメリットの大きいアライアンスである。光ファイバー2芯のうち1芯をインターネットと電話用、もう1芯をセットトップボックス用にするため、ユーザーはインターネット接続に影響することなく多チャンネル放送（地上波を含む）を同時に楽しむことができる。

先進技術への試みが期待されているケイ・オプティコムだが、生活支援系のサービス展開も視野に入れている。すでに「安心・安全」サービスでは、関電グループ「関電SOS」がケイ・オプティコムの光ファイバ網を利用してセキュリティサービスを提供している。また、NOVAの英会話レッスンを最初に提供したことでも知られる「教育」サービスの展開や、さらには欧米で実用化されている電子カルテ、画像診断といった「医療」分野など、光ファイバーで実現できる“トリプルプレイの次”のサービス展開も注目される。

（取材・文/柏木由美子）

（*1） http://www.k-opti.com/press/2005/press45.html
（*2） http://www.k-opti.com/press/2004/press09.html

■ 図1　FTTHによるトリプルプレイの接続イメージ



インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

［インターネット白書ARCHIVES］ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先 | 株式会社インプレスR&D | ✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.